令和３年度　大阪ひがし幼稚園　自己評価のまとめ

Ⅰ．本園の教育目標

教育理念

かけがえのない幼児の未知の能力に健康な体と深い創造力を養い、情緒豊かでやさしい人間性を育て、実行力のある人づくりを願いとして、教職員が一致協力して幼児教育に携わる。

望ましい子どもの姿

いきいきと明るい子

すなおでやさしい子

自分で考えのびのびと行動する子

教育目標

（１）一人ひとりの個性を大切にして自己を十分に発揮できるようにする。

（２）基本的な生活習慣や社会生活に必要なルールや心づかいを体得し、自立した生活態度を養う。

（３）主体的に活動できる環境を通して、豊かな感性や思考する力を育む。

（４）仲間と共に生活する中で喜びや悲しみを共有し、多様な人間関係を築けるようにする。

Ⅱ．令和３年度重点的に取り組んだ評価項目の具体的な取り組み状況

１．指導計画の見直しを行い、保育内容の充実を図る

＜取り組み状況＞

a 教育課程の見直しを行い、年間カリキュラムとの細かい照らし合わせをした。本園の特色が各学年、各季節に遊びや活動として取り入れられているか確認をし、３学年の連続性を見直した。

b.前年度の指導計画を元に期ごとの子どもの姿を振り返って見直しを行い、各学年の状況や課題を報告し検討した。

c.新型コロナウイルス感染症の状況に応じて、危機管理を徹底し、子どもたちが健康で安全な生活が送れるよう感染予防に努めた。

d.行事を含む保育活動のコロナ対応については,昨年度の経験を生かして実施方法を検討し工夫して行った。

e.１１月に砂場の砂を入れ替えた。新しい砂は粒子が細かく固まりやすいため、見たて遊びがしやすく子どもたちがより興味をもって遊ぶことができた。

◇給食

A 自然観察農園の栽培活動が充実し、米や大根、じゃがいも等の収穫量が増えた。それらはクラスのクッキング活動以外に給食にも利用し、全園児で食することができた。

b.給食に魚をメインとした新たな献立の提供を始め、食への興味が広がり子どもや保護者には大変好評であった。

＜今後に取り組むべき課題＞

a.教育課程と幼稚園教育要領を照らし合わせ、５領域の偏りがないか見直しを行うとともにより理解を深め、日々の保育を検証する。

b.飼育当番、郵便当番、味見係等の当番活動は、継続して取り組めるようになってきた。今後は内容の充実を図り、子どもたちが意欲的に取り組める方法や進め方を探り、ねらいが達成できる活動になるよう改善していく。

c.自然観察農園のレンコン畑とビオトープについては、子どもたちがより身近に感じ考え、学べる環境になるように改良していく。

d.小規模保育事業「まめっこくらぶ」「まめっこ」、また未就園児教室「おひさまクラブ」の未就園児が幼稚園生活に円滑に移行できるよう、互いのカリキュラムを照らし合わせ、共に保育のあり方を考える合同会議の場を設ける。また、幼稚園との相互理解を深められる機会を設け、保育内容・教育内容を検討していく。

２．教師の育成に努める

＜取り組み状況＞

a.講師を招いて、保育内容や指導のあり方について園内研修会を行った。子ども理解を深めより良い保育のあり方について学んだ。

b.講師を招いて、音楽研修を行い、曲調にあった歌唱指導やピアノの演奏方法を教わり、保育で活かすことができた。

c.子どもの理解や保護者の対応について臨床心理士と話す機会や研修をもち保育に生かした。

d.学年毎で特定クラスの保育観察やビデオ撮影による研究保育を行い、教師自身の保育を見つめ直す機会をもった。

e.教員研修会は、オンラインや web 開催の研修が増え、自分の空いている時間に受講できるため、以前よりも参加しやすくなりキャリアアップが図れた。

f.新規採用教員に本園の教育方針や保育内容を徐々に身につけられるよう指導した。また、保育の進め方や約束事などが共有できるように教員マニュアルの見直しを行い、生かせるように配布した。同時にコロナ禍における感染症対策事項や新たな見直しも行い、教職員の周知徹底を図った。

g.養成校（大学・短期大学）からの教育実習生については、学生一人ひとりに合わせた指導ができるよう担当教師で指導内容の充実を図るとともに、実習生の指導方法や問題点の改善方法等を担当教師間で話し合い、有意義な実習を経験できるように努めた。

h.教職員のワークライフバランスの実現と長期継続勤務が可能となるよう、職場環境の改善や残業の削減に努め、教職員と学園の相互理解を図った。

i.今後の教員採用に繋がるように養成校を訪問し就職説明会や就職フェアにも積極的に参加した。また、就職見学説明会も行い、本園の教育 PR 活動に努めた。

＜今後に取り組むべき課題＞

a.子どもの発達や特性を理解し、適切な指導や援助に努める。また、進級する際の引継ぎを細やかに行い、共通理解を図る。

b.保育の質を向上していくために講師を招いて園全体や学年で研修会を行い、課題を見出して共有し、実践しながら互いに高め合っていく。

c.施設型幼稚園へ移行し、処遇改善制度の適用に伴い、教員のキャリアアップ研修を受講していく。

d.経験ある教師は、若手教師の悩みやつまずきなどを親身になって理解し、支援、指導していく。

e.本園にとって必要とする人材確保のため、実習生の指導や養成校との連携を行う。

f.教職員の出身校への訪問や就職説明会、就職フェアにも積極的に参加して、新規採用に向けて本園の教育ＰＲ活動に努める。

３．防災・安全意識を高める

＜取り組み状況＞

a.年間の災害・防災訓練実施計画を立て、様々な災害を想定した避難訓練を行い、子どもたちに命を守ることの大切さや防災意識を指導した。教職員は訓練の実施状況を受けて、気づきや反省を生かして災害マニュアルを見直し、教職員間の周知徹底を図った。

b.前年度のケガの状況を考慮し、新入園児が園生活に慣れていない時期の自由活動では危険度の高い遊具や場所を一部規制し、早い時期に子どもたちに安全教育と安全指導を行った。また園内でケガや事故が起きた際には、原因を究明し、改善点を出し合い、それに伴う環境整備を行った。

c.教職員の救命救急講習（心肺蘇生（幼児・乳児も含む）、ＡＥＤ、応急手当方法、消火訓練）を行い、災害や事故発生時の対応を学んだ。

d.例年行っている門真警察による交通安全指導、防犯訓練、守口市門真市消防組合消防本部による園内の火災避難訓練や消防署見学、幼年消防クラブの防火 PR の取り組みは、感染拡大防止のため関係機関側の意向により中止となり、園内での自主訓練となった。

e.ローリングストック法を取り入れ、給食で非常食のアルファ化米を提供したり、保育室で実際に作って見せたり、非常食に触れ食べ慣れる機会を設けた。

f.大阪府教育庁、大阪府警、門真市からの園児の安全に関わる情報提供を迅速にれんらくアプリにより発信し、家庭でも安全意識をしっかりともってもらうように努めた。

＜今後に取り組むべき課題＞

a.保護者の防災意識を高め主体的な安全行動が行えるよう、警察や消防などから受けた情報の提供や集会、訓練などの機会をもつ。コロナ禍ではあるが、子ども一人一人が身を守る力が身につけられるよう計画的に訓練を実施し、その時の状況に合わせた安全な避難訓練を実施していく。

b.教職員の救命救急講習、消火訓練、不審者侵入を想定した防犯講習を、緊急時の適切な対応能力の向上を図る。また各自で研修にも参加し、学んだ情報を共有し実践に結び付ける。

c. ケガや事故を防ぐために、日々の安全点検と確認を行う。また子どもたちへの安全教育・安全指導を行うとともに、バランス感覚と体幹を鍛えるためにリトミックや柔軟運動などを保育の中に努めて取り入れていく。

d.来年度で園舎建設１０年目を迎える。電気機器や設備、遊具の点検を適宜実施し、適切に修理や改善を行い、安全でより充実した環境になるよう意識を高め、改良や補修を行う。

～いらっしゃいませ　おいしいビワはいかが？～

～みんなで大きい山を作ったよ～

～海遊館　ジンベイザメとはいチーズ～

４．保健・衛生管理に努める

＜取り組み状況＞

a. ３学期にはオミクロン株により陽性者、濃厚接触者が急激に増加した。大阪府や門真市等関係機関の指導の下、園医とも連携しながら濃厚接触者の判明と学級閉鎖の必要有無を検討し対応した。そして感染した園児や保護者の心に寄り添いながら、できるだけ適切に対応出来るよう努めた。また、幼い年齢の子どもたちが生活する環境として、保護者への状況報告と注意喚起、健康観察の重要性を発信し、室内、遊具等の消毒を日々行った。

b. 新型コロナウイルス感染症に伴い、門真市からの補助金の給付を受け、感染症予防の備品を購入し、危機管理体制を強化した。

c. 「けんこうかんさつカード」を継続し、子どもたちの登園前の体温や体調の把握を行い、登園時、昼食前、降園前の検温、手の消毒などの感染予防対策を徹底し行った。また、教職員も出勤時に検温をし、体調管理に努めた。そして、関係官庁から発信される新型コロナウイルスの情報を迅速に保護者に連絡すると共に、教師間でも共通理解を図ってきた。

d.体重・身長の測定を毎月実施し子どもたちの発育状況の把握をする。健康診断は、内科、歯科、耳鼻科、視力、心電図検診と検尿検査を行い健康管理に努めた。

e.子どもたちの健康状態を観察し、異変や疾病の疑いが見受けられる場合はすぐに保護者に連絡をとり、医療機関の受診を勧めた。また、毎月「ほけんだより」を発行し、保護者に留意すべき事項を知らせると共に、感染症による欠席者が出た場合には手紙で通知し、蔓延の防止に努めた。

f.給食調理・配膳に関しては、より徹底した衛生管理を行っている。給食時の感染リスクが最も高いので、机の台数を増加し間隔を保ったり、飛沫防止パネルを設置したり、できる限りの感染予防を強化した。

g.食物アレルギーの対応について、給食・おやつの提供におけるマニュアルの再点検、安全提供システムの確認、保護者説明会の実施、毎月の給食だよりの保護者確認を管理栄養士、アレルギー担当教師、担任、給食調理員で徹底して行っている。また、給食調理員と教師が話し合える場を設け、互いの問題点や工夫点、改善したい点等を出し合い、より良い給食になるよう共通理解を図った。

h.夏季は、気温上昇に伴い戸外遊びの時間や内容、エアコンを適切に使用しながらの室内温度管理、経口補水液の準備等に取り組みながら、勉強会にも参加した。

＜今後に取り組むべき課題＞

a.コロナ禍において、感染拡大予防のための有効な手段として、マスクの着用は欠かせないが、気温、湿度の高い時期や運動量の多い活動においては、熱中症のリスクが高くなるため、職員間で情報を共有し状況により適切な判断をもってマスクの着脱を促せるようにする。

b.夏季の気温上昇に伴い、黒球熱中症指数計の購入や毎日測定を行い、暑さ指数の高い日は、遊びの内容や時間を考慮したり、自由活動中にも休息時間を設け熱中症予防に努める。熱中症の危機管理意識を一層高め、研修会に参加したり、熱中症対策セットを設置するなどし、重大事故につながらないようにする。

c.子どもたちの健康状態を観察し、異変や疾病の疑いが見受けられる場合はすぐに保護者に連絡をとり、医療機関の受診を勧める。

d.「ほけんだより」等で感染症の発生状況など保護者に留意すべき事項を迅速に発信し、病気の蔓延防止に努める。

５．家庭との連携を深め、子育て支援の充実を図る

＜取り組み状況＞

a. 新型コロナウイルス等の感染症の蔓延防止のため、園児本人はもちろん同居家族に体調不良の方がいる場合に出席停止措置と同様に“登園自粛”（欠席扱いとしない）として取り扱い、保護者に周知徹底した。

b.新型コロナウイルス感染症によるストレスや集団生活に不安がある子どもや保護者の状況把握をし、子どもには不安を受け止めて緩和できるような対応、保護者には心配なことや要望などを聞き、一人ひとりのケアに努めた。

c.子どもの園での様子や援助、指導の状況を保護者に伝えると共に、家庭での様子を聞いて情報交換を行った。個人記録を多面的（興味関心・人間関係・言葉・生活など）にとることを心掛け、子どもの長所や課題について共通理解をし、保護者との連携を高めるように努めた。

d.子どもを取り巻く家庭の状況を把握して十分な理解をしたうえで、関係機関とつながり助言を得ながら、子どもや保護者の支援に努めた。

e.卒園児アンケート（※）の集計を行い、その結果を在園児保護者に配布した。感想をいただいたことで、保護者にも家庭教育と幼稚園教育の連続性や連携の大切さを知ってもらい、家庭教育を振り返るよいきっかけとなった。

f.在園児、卒園児保護者の子育て体験やメッセージを掲載した機関紙「ひがしっ子」（36 号）を発行した。 在園児と小学６年生までの卒園児及び各小学校・教育委員会へ送付した。保育活動の記事や卒園児近況報告、関係者のメッセージ等を掲載し、本園の保育を深く理解してもらい、子育てに役立ててもらう機会になった。

g.保護者が来園して行事、活動に参加することや保護者の先生体験やグループ懇談など子育て支援を目的に取り組んできたことが、コロナ禍で２年間実施できていない状況において、保育内容の理解や幼稚園の実情などが伝わりにくく、相互理解に難しさを感じている。

◇子育て支援

a.発達の遅れや特性から担任だけでは安全で適切な保育が難しいと判断した場合、保護者へ協力を求め特別支援の申請を行い、加配を配置している。

b.未就園児「おひさまクラブ」は、令和３年度に通年週１回コースが３クラスと通年隔週コースが１クラスの計４クラス、また後期１０月開始の１歳児親子コースを例年通り３クラスの募集を行った。コロナ対策を図り実施し、入園につながっている。

c.キンダーカウンセリングでは相談件数や保護者の諸事情を考慮し、相談日を増やしたり、時間枠を変更したりと、ニーズに応えて実施している。

＜今後に取り組むべき課題＞

a.子どもの発達状況や特性、援助配慮の視点や課題などの共通理解を深めるために、日々の連絡帳や電話での連絡、個人懇談などを積極的に実施していく。また保護者の子ども理解を高め、家庭でも個々に合わせた援助や配慮ができるよう、保護者との連携を大切にして信頼関係を築いていく。

b.子どもと保護者が食育の大切さを実感できるよう、前年度同様に本園の保育の重点項目であり、保護者にも「きゅうしょくだより」やその他の手紙などを通して情報の発信を行う。

c.子どもを取り巻く様々な家庭の状況を把握したうえで、担任や教職員は子どもや保護者の継続した経過観察に努め、関係機関との連携を図る。

d.未就園児教室「おひさまクラブ」は保護者や社会のニーズに応え、実施回数を増やし内容の充実を図る。また未就園児が集団生活を経験する中で自立心の芽生えを育み、スムーズに幼稚園生活の教育内容が繋がっていくよう指導援助する。保護者にも入園に向けて、本園の教育内容や子どもたちの自立に向けた取り組みについての理解が深まるように送迎の際や懇談会で伝えていく。

６．幼小連携の充実を図る

＜取り組み状況＞

a.近隣２校（門真市立二島小学校・門真市立沖小学校）と１学期中に教師間の連絡会を実施した。１学期の様子を写真を見ながら聞かせてもらうとともに、小学校入学までに家庭や幼稚園で身に付けておくべきことや、幼稚園生活での姿について双方が報告し合い、共通理解の場となった。またそこで得た内容を本園の教育に活かし、家庭教育でも意識していただけるように手紙で保護者に発信した。

b.二島小学校への訪問や４年生を迎えて開催しているもちつき交流会、また近隣４校の就学前の学校見学などが感染予防のために中止となり、５歳児の小学校交流を図ることができなかった。そのため３月に過去の小学校見学の写真や教科書などを用いて小学校に向けての話をする機会をもち、入学への期待が膨らむよう努めた。

c.年度修了時には卒園児の幼稚園指導要録の抄本を進学先小学校に送付した。また、市や小学校からの要望により、園での様子を見に来られることが多くなり、連携の重要度が増えている。

d. 卒園児アンケート（※）を行い、集計結果を元に進学に向けて幼稚園教育がすべきことの検討と家庭教育で行うべきことを保護者が考える機会を作った。また、集計結果は教育委員会や卒園児の進学先小学校にも送付した。

e. 令和２・３年度を通して大阪府私立幼稚園連盟　教育研究所　第 28 次プロジェクトチーム「５歳児保育の本当に大切なこと　～いかに資質能力を育て、意欲を育み、保護者・小学校に伝えるか～」に参加し、研究を行った。

＜今後に取り組むべき課題＞

a. 過去３年間幼小連携に関しての活動中止が続いているため、小学校の様子が分からないまま進学することに不安を感じる家庭の声も聞かれている。小学校との連携や協力を要することではあるが、教師が小学校に出向き、校内をビデオで撮影し園内で上映したり、オンライン（ZOOM など）を利用して、小学校の教員が園児に向けて話をしていただく機会を作ったりなど、就学の不安が改善できるよう協力を求めながら、提案実践できるよう働きかけていきたい。

b. 卒園児アンケート（※）を行い、その結果を幼稚園と家庭の共通理解に繋げる。また過去６年のアンケート結果を比較し、昨今の傾向を分析する。それを教師間で共通理解し、改善を行っていく。

c. プロジェクトチームに参加し、５歳児保育の在り方において見えてきた課題（幼稚園教員の小学１年生に関する知識の充実、幼小連携における幼稚園側のアプ

※卒園児アンケート

毎年、卒園した１年生の子どもと保護者を対象に６月末に各家庭に送付、７月の同窓会で回収し、後に集計を行う。調査項目は、幼稚園生活の中で育った点や園の保育内容の満足度等。

～青蓮荘の方にプレゼントだよ～

～火事の避難訓練　農園に逃げよう～

～おひさまクラブ　お返事はーい！～

～機関誌「ひがしっ子」～

ひがしっ子 36 号

７．地域との連携活動の充実を図る

＜取り組み状況＞

a.「三井アウトレットパーク地域貢献事業こども未来応援プロジェクト（CSR 事業）」に５歳児が参加し、「山口県柳井市タイアップ　金魚ちょうちんを作ろう」の製作遊びを各クラスで実施し、完成したものが展示された。

b.門真市の清掃活動「キラッと！かどま」に今年度も参加を予定していたが、実施時期（９月）に新型コロナウイルス感染症が増加していたため実施を見合わせた。ただし、例年同様南側遊歩道には子どもたちが作成したポイ捨て防止のポスターを掲示し、啓発活動は継続して行った。

c.南隣の老人ホーム「青蓮荘」の訪問では、昨年度に引き続き感染対策を講じながら青蓮荘の駐車場を利用し、子どもたちが手作りした贈り物を届けたりダンスや歌を披露したりする交流を行った。また、青蓮荘の利用者の皆さんからは卒園式や入園式の手作りのお祝い看板を贈っていただき、保護者の皆様にも紹介することができた。

d. 鶴見区保健福祉課（子育て支援）が企画された 4 歳児訪問事業に賛同し、保健師に子どもへの健康教育（食事・生活習慣等について）と絵本の読み聞かせをしていただいた。

＜今後に取り組むべき課題＞

a.門真市清掃活動「キラッと！かどま」に参加する等、園児・教職員ともに日頃から地域の奉仕活動に積極的に参加する。

b.コロナ禍における、近隣施設（老人ホームや医療機関など）を含めた地域との交流において、可能な方法を一緒に検討し、双方にとって無理のない交流を実施する。

c.通園地域である門真市・大阪市・大東市・東大阪市・守口市や公共機関（消防署・警察署等）の企画するさまざまな啓発を目的とした活動に協力し、連携を図る。

Ⅲ．学校関係者評価委員による意見

＜学校関係者評価委員＞　学識経験者、評議員、保護者　計 12 名

今年度の学校評価を通して、丁寧かつ詳しい分析に園内のチームワークの良さが感じられ素晴らしいと思った。

卒園児アンケートの保護者評価からは、「たくさんの経験、体験を通して・・・」という言葉がたくさん聞かれ、この園の大きな特色として保護者理解が進んでいることが伺われたので、この点については是非とも大切にしていってほしい。

また学校教育では個別最適な学びに注力されつつあり、本園でも特別支援についてたくさんの研修を受けられているとのことだが、今後も更なる研鑽を積んでもらいたい。

他方、教職員の有給、育休、産休の充実やメンタルヘルスケアなど、職場環境の向上にも着手されているとのこと、こちらも引き続き力を注いでもらえたらと願っている。